



# 憧れの北岳バットレス

— 大人の山岳部 —

笠原正貴

平成7年卒



平成7年卒（百期会）の笠原正貴（東京歯科大学薬理学講座）です。同じく百期会の古谷義隆君（口腔インプラント学講座）と結成した「大人の山岳部」（同窓会会報第421号（2020年10月））の山行も、すでに100回を超えました。今回は、2025年9月に登攀した「北岳バットレス第4尾根主稜」をご紹介します。



① 北岳バットレス全景。中央の顕著な岩稜が第4尾根

2025年度の「大人の山岳部・夏山合宿」は、日本第2の高峰である北岳（3,193m）が擁するバットレス登攀でした。「バットレス」は壁面を支える「控壁」を意味する建築用語ですが、そのネーミングの通り、第1から第5までの直線的な岩稜が大樺沢から立ち上がり、北岳の頂きを支えています。「北岳バットレス」はこの岩場の特徴を端的に表し語感も良く、実にカッコ良いネーミングです。特に第4尾根主稜は北岳バットレスのほぼ中央に位置し、大樺沢から頂上にかけて真っ直ぐに突き上げる、豪快かつ爽快なルートです。標高差600mの長大な岩稜は、まさに北岳バットレスのメインストリートです。クライミング技術的にはそれほど難しくないことから、常に多くのアルパインクライマーを迎え入れています。

一方、どの山もそうですが、山は徐々に崩れてゆくものです。北岳バットレスも例外ではなく、1981年に第4尾根上の「マッチ箱」の基部（二畳ほどのスペース）

が崩落、さらに2010年には、その上部にある「枯れ木テラス」付近で大規模な岩盤崩落がありました。今回の登攀でもマッチ箱より上部の岩には、いくつかの大きなクラックが不気味に走っているのが確認できました。したがって、再び大崩落する可能性もあり、不安を抱えての登攀となりました。とはいえ、北岳バットレスは憧れのクラシックルートです。大人の山岳部の結成当初から目標の一つに数えられておりましたが、なかなか機会に恵まれませんでした。しかし今回、ようやく念願が叶いました。

今回の日程は、白根御池小屋（標高2,230m）利用の大人のゆとり日程（アタック日の前後に2泊）でした。アタック日は朝4時に出発しました。通常は夜中の2時くらいに出発するのが常なのですが（人気ルートなので、ルート上の渋滞を回避するため）、むしろ渋滞をやり過ごしてからとの考えから、あえて遅くに出発しました。一般登山道から外れてバット

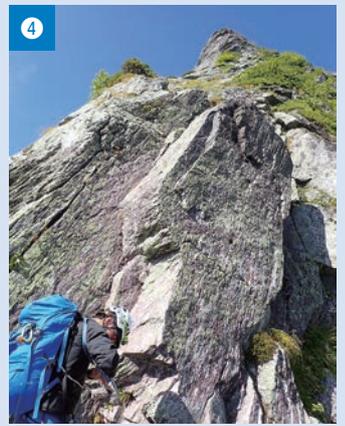




2



3



4

- ② 一般登山道から外れてバットレス沢を詰め、下部岩壁のBガリー大滝を2ピッチ登攀する
- ③ Bガリー大滝終了点から第2尾根を乗越し、落石の多いCガリーを詰める
- ④ 第4尾根主稜の取り付け。まずは上に見えるピラミッドフェースの頭を目指す

レス沢を詰め、下部岩壁のBガリー大滝に達します。6時50分に登攀を開始しました。まずBガリー大滝を2ピッチ登ります。次いで上部草付き斜面を登り、第2尾根を越えてCガリーに入り、第4尾根の入口であるヒドゥンスラブを目指します。このスラブを登れば、第4尾根主稜の取り付けへと至ります。取り付けは広いテラスとなっており、眼下の大樺沢や白根御池小屋を眺めながら、しばしここで休憩し、静かな時間を過ごしました。ここまでは、他のク

ライマーと出会うことはありませんでした。後続のパーティーも見当たらず、おそらく先行パーティーもいなかったように思われました。実は悪天候の予報がありましたので、断念したクライマーが多かったのかもしれませんが。天候は晴天だったり、ガスったりしたものの雨には祟られず、終始、我々だけの静寂な世界を存分に堪能できました。

下部岩壁取り付けから終了点まで、懸垂下降を含めて14ピッチの快適なクライミングでした。終了

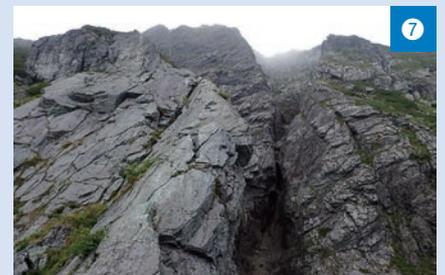


5

- ⑤ 三角形の垂壁を越えたところ。バックには圧倒的な存在感の中央稜
- ⑥ 高度感満点、第4尾根主稜の映えスポット。眼下に大樺沢を望む
- ⑦ 第4尾根上部を観察する。中央奥の顕著な岩稜が中央稜で、基部が崩壊している
- ⑧ 横たわる城塞ハング。上部のハイマツ帯に続くクラック内を登攀する



6



7



8



点からは高山植物のお花畑の中を山頂まで登って行くのですが、体力がないのか年のせいなのか、実にバテバテであり、お花を愛でる余裕はありませんでした（笑）。登っている途中で、乱れた呼吸を整えるために立ち止まります。呼吸という普段は意識すらしない行為が、ここでは全身全霊を懸けた営みとなります。呼吸を通じて生きることに集中する。あらゆる虚飾を排除して無心に生きる時間が、生きていることを実感させてくれるので、私は苦しいけれどありがたいと感じています。北岳頂上に到達したのは15時（予定より2時間くらいオーバー）、白根御池小屋に戻ってきたのが17時、すなわち13時間行動でありました。



⑨ マッチ箱に向かうリッジを登攀する  
⑩ この岩峰がマッチ箱。そのピークから20m 懸垂下降してから再び登攀する

「北岳バットレス第4尾根主稜」。技術的にはそれほど難しくない一方で、様々な状況判断、特にルートファインディングや天候による影響についての判断を求められるので、それなりに緊張して臨んだ山行でありました。しかしながらこれまでに100回以上、古谷君とはザイルで結ばれて、

様々な困難を共に乗り越えてきたわけでありまして、不安に襲われる時こそ、古谷君の存在が心強く感じられます。毎度まいど、古谷君には感謝の気持ちでいっぱいです。紙面をお借りしてあらためて御礼申し上げます。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

⑪ 枯れ木テラスを目指す ⑫ 枯れ木テラスから高度感満点のトラバース。城塞ハングのクラックを目指す  
⑬ 日本第2位の高峰、北岳山頂

